

主 文

本件各上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人A、同B、同C等の負担とする。

理 由

被告人B、同A、同Dの弁護人前田力の上告趣意は量刑不当の主張、被告人A、同B、同Cの弁護人山崎今朝彌の上告趣意第一点は単なる法令違反、同第二点は事実誤認又は量刑不当の主張であつて、いずれも刑訴四〇五条の上告理由にあたらな
い。（第一審第三回公判において被告人Aの所論供述調書の所論の部分を読した
のは、同供述調書について任意性の調査のためであつて、同供述調書について証拠
調がなされたものではない）また記録を調べても同四一一条を適用すべきものとは
認められない。

よつて同四一四条、三八六条一項三号、一八一条（但し、被告人A、同B、同C
について）により、全裁判官一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和二八年一〇月三〇日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎